

# 学 園 報

No.33

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>  
 富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>  
 富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444  
 TEL/076-436-5139  
 FAX/076-436-5444

## 創立50周年記念式典 理事長挨拶



理事長  
金岡 祐一

理事長・金岡でございます。本日の学園50周年記念式典にあたり、石井富山県知事をはじめ富山県内・有力各位におかれては、御多忙中にかかわりませず御臨席たまわり、まことに有難く、あつく御礼申し上げます。ではあらためて、教育とは何か？46億年の歴史の間、地球上では恐竜をはじめ多くの生物の盛衰がありました。しかしその中で「長期にわたり子どもを教える」という生涯プロセスを必要とした生物は、まさに人類だけだったのであります。ではひるがえって我々の現実、21世紀に立ちましょ。我国には「教育基本法」がある。そのエッセンスは何か。私はここでは「社会人としての人格の完成をめざす」。この一言につきると申し上げておきます。

皆様、ではここで、そろって50年前に若返りましょ。昭和38年（1963年）。初代理事長・私の父が富山女子短期大学を創立した年です。当時は県内女子高校生の進学先はほとんど無かったです。この若き女性達の勉学と向上心の受け皿を「教育更新し用意すべし」との社会的使命観に立ち、県も市も賛成され、第3セクターとして出発したのがわが女子短大であります。最初は、知事も市長も短大の理事だったのです。

そして50年、平成25年の今日。全国では日本の大学は800校近く、そのうち私学は77%。従って私学は我国・高等教育の、少なくとも量的責任を負っているのです。では我が富山県はどうか。北陸の小県、しかし県民性はマジメ・勤勉。当然、中央指向となる。学校でいえば国公立優先となったのは自然な流れだったのでしょうか（然し実はその底流に、明治以来の「お上頼り」の気質も残っていたと、私はみています）。

今年の3月、富山短大卒業生は2万人、学園卒業生総数は4万人。県民数は約108万人（石井知事、そうですね？〔答え・笑〕。有難うございます）。従ってこの数字の全体像から、わが学園の県・教育界の人材育成への貢献度は比類ないものと、私は信じます。理事長は50周年に当り、あえて募金活動を提案しました。第一に、教職員が自主的に募金することにより、今後の50年に立ち向かう学園の意志を、社会へ明示すべきと考えたからです。その上で、御関係者に御理解と御協力を仰ぐという主旨としました。おかげをもちまして目

標額以上を達成でき、皆様にあつく御礼申し上げます。

本来教育は、一国の文明と文化の象徴です。本学園はこの半世紀の実績に立つ「自信と誇り」をもって、今後も富山の「地域繁栄」の基礎たるべき人材育成につとめます。そして県民皆様のために「希望の柱」を打ち立てたい。「教育とは、希望を語ること」。フランスの詩人・アラゴンの美しい言葉です。私は福沢諭吉の「烈々たる自主・独立の精神」に共鳴し、「希望を語りつつ」古代ギリシャの宮殿の如き美しく立派な「私学の柱」を、富山県民のために打ち立てたい。学園50周年に際し来る半世紀へ前進すべく、あらためて県民皆様の御健勝を祈り、あわせて本学園への御理解と御支援をお願い申し上げます。有難うございました。

### 学園報告（抄録）

- ①現代社会学部はアクションプラン策定に取組み、民間委託職業訓練事業も受託。エクステンションカレッジも実施。
- ②子ども育成学部は教員採用試験に7名合格。公私立保育所採用も内定者多く、大学祭でホームカミングコーナー開設。今や社会的認知は大きく高まったとみる。
- ③富山短期大学：①食物栄養学科と専攻科は最新の設備を有する新棟での授業開始！②幼児教育学科は幼保一体化の流れの中、多年、抜群の伝統をふまえ、チャレンジの構え。③経営情報学科は「産学連携人材育成プログラム」へ積極的に踏み出す。④福祉学科は施設指導者との連携を強化。⑤学生部関係では、原ひかりさんが空手ワールドカップチリ大会準優勝は快挙！
- ③国際大学付属高校は県・英語ディベートコンテスト次勝の健闘。文武両道。
- ④短大付属みどり野幼稚園は信用あつく応募も順調。
- ⑤社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園は駐車場を拡張整備。子ども・子育て支援制度への対応も検討。
- ⑥かくて全学園は記念行事を広く展開しつつ、全力をあげて次の50年へ向けて躍動開始！

## CONTENTS

### □創立50周年記念式典 理事長挨拶

理事長 金岡 祐一 …………… 1

### □特集 富山国際学園創立50周年 記念式典・祝賀会・記念講演会

-50年を振り返り先人・関係各位に感謝しさらなる発展に向け思いを新たに- …………… 2~3

□基調講演 「生きているってすばらしいー自分の人生は自分ででき開くー」 …………… 4~5

□平成25年度部門別学生・生徒・園児数等 …………… 5

□平成24年度決算及び財務の状況 …………… 6~7

□学園NEWS…………… 8

# 富山国際学園創立50周年 記念式典・祝賀会・記念講演会

## —50年を振り返り先人・関係各位に感謝しさらなる発展に向け思いを新たに—

創立50周年記念事業 式典等部会長 小芝 隆



10月17日（木）に学園創立50周年記念式典・祝賀会・記念講演が、竣工なった呉羽キャンパスG館で盛大に開催されました。一週間前は最高気温が30度、前日は台風26号の通過と天候が大変心配されましたが、当日は素晴らしい秋晴れとなりました。

### 記念式典（新体育館 10:30～11:30）

式典に先立ち、付属みどり野幼稚園年長児全員による合唱とダンスが行なわれ、終わりに会場に向かって、年長児全員が、「50歳のお誕生日おめでとう！」と元気に呼びかけました。可愛い園児達によって、会場全体が明るく和やかな雰囲気になりました。

式典は、4校の校旗入場から開始されました。式典には、石井隆一富山県知事、杉本正富山県議会議長、森雅志富山市長（代理 老月邦夫副市長）、田畑裕明衆議院議員、小出秀文日本私立大学協会・全私学連合事務局長、遠藤俊郎富山大学長を始め、県内外の教育・行政・企業・各種団体・地元自治会及び本学園の各同窓会後援会・旧教職員・非常勤講師等から約300名の来賓招待者、これに本学園の高校生・短大生・大学生・教職員約700名を加えた合計1,000人が参加しました。

国歌斉唱に続き、金岡祐一理事長が以下の式辞を述べました。

「富山女子短期大学は50年前に、第3セクターで出発したので、創立当初は富山県知事、富山市長も理事でした。富山短期大学卒業生は本年3月卒で2万人を超え、学園全体の卒業生はほぼ4万人に達しており、学園の富山県教育界・人材育成への貢献は比類のないものであります。本学半世紀の実績に立ち、富山県の繁栄のため、古代ギリシャ神殿の如き美しく立派な『私学の柱』を打ち立てたい。50周年を機に、次の半世紀へ向かって前進すべく、県民の皆様からの本学園へのご理解とご支援をお願い申し上げます。」

その後、以下11名の学園功労者が紹介されました。石坂誠一富山国際大学名誉学長、田中忠治 前富山国際大学長・富山国際大学名誉教授、本多宗高 富山国際大学名誉教授、川中清司 富山短期大学名誉教授、児玉博英 富山短期大学名誉教授、金岡トモコ 富山短期大学名誉教授、草野滋 元富山国際大学付属高等学校長、小杉邦夫 元富山国際大学付属高等学校長、土井浩 元富山短期大学付属みどり野幼稚園長・富山短期大学名誉教授、住悦子 元富山短期大学付属みどり野幼稚園長・富山短期大学名誉教授、土田希 元富山国際大学教務部次長、（石坂氏、川中氏のご欠席）。11名を代表して田中忠治氏に、理事長より感謝状と記念品が贈呈されました。

来賓の方々を代表して石井隆一富山県知事、森雅志富山市長から、以下の祝辞をいただきました。

石井知事「学園の人材育成等への貢献に感謝を申し上げます。今後ともふるさと富山に心の根を置きながら、しかしチャレンジ精神をもって、県内はもちろん、国内外を舞台に活躍する人材育成を期待しています。学園創立時に、県知事が理事であったことを考えると富山県民と本学園との絆を改めて感じるとともに、次の50年、100年を目標に発展を願っています。」

森市長（代理 老月副市長）「学園が、教育・食育・介護・ボランティア・環境等の幅広い分野で、活躍する人材の育成を図ってきたことや地域社会に開かれた学園として、市民に生涯学習の場を提供してきたことへの感謝を申し上げます。人が輝き、安心して暮らせる街、全ての世代が学び、豊かな心を育む街作りをめざす富山市が、今後、市民が学習する環境の充実を図るためには、特色ある学風を築いている富山国際学園と一層の連携を図りたい。」

司会者より多数の祝電が届いていることが報告され、下村文部科学大臣からの以下の祝電が披露されました。

「学園の50年にわたる社会への貢献に感謝申し上げますとともに、50年の伝統の上に、今後とも地域に根差した教育研究活動、我が国のこれからの発展に貢献できる優れた人材育成を期待しています。」

引き続き、以下の海外の協定校、姉妹校からのビデオメッセージが紹介され、富山国際学園の国際性を参加者一同が再確認する機会となりました。

#### 富山国際大学協定校

・中国 天津社会科学院長 張 健（チョウケン）氏

・中国 大連海洋大学外国語学院長

郭 艷玲（カクエンレイ）氏

・韓国 聖公会大学 総長 李 定九（イジョング）氏

富山国際大学付属高等学校姉妹校

・ニュージーランド パ克蘭ガカレッジ

校長 マイケル ウィリアム氏

次いで富山短期大学 学生会長 青島和音君が、園児・生徒・学生を代表して、喜びの言葉を述べました。

「新築されたばかりの体育館・学生ホールで、学園創立50年の式典に、学生として立ち会えたことを嬉しく思います。私達の通うこの学園が、50年にわたって地域から愛されてきたことを誇りに思うとともに、次なる50年に向かって、その歴史と伝統を私達が引継ぐ責任を強く感じています。学生・生徒の一人一人が、母校に何ができるのか、社会のためにどうすべきなのかの自覚を持ちながら、大きな飛躍を目指して努力することを誓います。」と力強く述べました。

最後に富山国際大学と富山短期大学のコーラス隊、富山短期大学宮川七海さんのピアノ伴奏のもと、校歌の斉唱がなされ、学園関係者一同により、校歌にある「誠あるところ」が歌い上げられ、式典を閉じました。

### 記念祝賀会 (新学生ホール 12:10~13:40)

来賓招待者約160名と学園役員教職員約40名の計200名による祝賀会が、新学生ホールで開催されました。開宴に先立ち、地元呉羽に設置されている桐朋学園大学院大学の桐朋オーケストラ・アカデミーによるブラームス作曲「大学祝典序曲」弦楽四重奏が演奏され、文字通り会場は祝典の雰囲気にも包まれました。

最初に、富山国際大学・富山短期大学 中島恭一学長が以下の挨拶を述べました。

「20世紀後半から21世紀にかけての半世紀、激動する日本社会の中であって、本学園も様々の変遷を経て今日に至っていますが、創立50周年を新築された校舎で迎えることができ、新たな次の50年に向けてのスタートをきることができたとの思いであります。今後も地域における人材育成の拠点、知の拠点として、皆様の期待に添えるよう全力を挙げる決意を表明するとともに、一層のご支援・ご協力をお願いします。」

ご多忙な中、来県して下さった日本私立大学協会・全私学連合の小出秀文事務局長から、次の乾杯のお言葉をいただきました。

「先の式典において、富山県知事さん、富山市長さんから、この学園が県市などと歩みをともしておられ、そして県市が絶大なる信頼を寄せておられことをお聞きし、この学園の将来は大丈夫であるとの確信を持ちました。学園教職員の方々に申し上げたいのは、学園を慕って入学してくる園児・生徒・学生をしっかり抱きしめ、社会へ送り



出す『魂の教育』を行なってほしいということです。富山県富山市を始め、関係の皆様にも富山国際学園に対して、今後ともご協力ご支援、そして叱咤激励をお願いします。」

その後、来賓招待者の皆様にも、桐朋オーケストラ・アカデミーによる弦楽四重奏の演奏をお楽しみいただきながら、ご歓談の時間を過ごしました。

最後に、富山信用金庫 山地清理事長ご発声のもと、学園への万歳三唱をいただき、それに対して富山国際大学附属高等学校 中田正幸校長から、来賓招待者の皆様への御礼の万歳があり、和やかな中に、祝賀会を閉じました。

### 記念講演会 (新体育館 14:10 ~15:45)

講師 鎌田 實先生 (諏訪中央病院名誉院長)

演題 「生きているってすばらしい

—自分の人生は自分ででき開く—

講演会は、来賓招待者と地元等の参加者約200名に学生・生徒・教職員700名を加えた約900名が聴講しました。中島学長の開会の挨拶の後、富山国際大学尾畑学務部長が講師紹介を行ないました。



鎌田先生はこの日、日本テレビのレギュラー番組出演の予定を持っておられましたが、それを変更して本講演会にお越しいただきました。

講演は、「自由、勇気、想像力」の三つのキーワードを中心に、それに本学園の教育目標である「知性、教養、個性」を重ね合わせてお話して下さいました。

様々な困難の中、努力して医師の道を進まれました。それを基盤にして、諏訪中央病院での地域医療、さらには原発事故のチェルノブイリ、戦乱のイラク、大震災と原発事故の東日本等での被災地支援に取り組んでこられました。その経験をもとに、特に学生・生徒に向けて、知性と他者の思いを理解できる想像力を磨いてほしいと述べられました。最後に先生は、「これからの学生・生徒に期待して全力で話をさせてもらった」と結ばれました。

鎌田先生は、金岡理事長が日頃から引用される、フランスの詩人アラゴンの言葉「教育とは希望を語ること」を身を以て示してください、学園の新しい出発に相応しい講演会となりました。副学長の小芝が、鎌田先生へのお礼と閉会の挨拶を述べました。閉会後に会場で、鎌田先生の著書販売とサイン会が行われました。

記念式典・祝賀会・講演会の運営には、ほぼ全員の教職員と多数の園児・生徒・学生が関わりました。この日の式典等を通して、50周年記念事業の趣旨「50年を振り返り、学園発展に貢献された先人・関係各位に感謝の意を表するとともに、学園のさらなる発展に向けて思いを新たにす」を達成する機会となりました。



## 基調講演

# 「生きているって素晴らしい —自分の人生は自分でできり開く—」

諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實さん

### プロフィール

39年間、医師として地域医療に携わり、その傍ら、チェルノブイリ、イラク、東日本大震災の被災地支援に取り組む。

東京医科歯科大学医学部卒業後、長野県・諏訪中央病院へ赴任。30代で院長となり、潰れかけていた病院を再生させた。「健康づくり運動」「住民とともに作る医療」を実践し、脳卒中死亡率の高かった長野県はいまや長寿日本一、医療費も安い地域となった。「病気や障がいがあっても、旅をあきらめない」としてバリアフリーツアーを企画。2004年以降年2回、ボランティアで障がい者との旅を続けている。3.11以降は、東日本の被災地支援に力を注いでいる。

他者への思いやり、豊かな想像力から

生きていることは、とても素晴らしいことです。自分の人生をどうきり開いたらいいのか。「想像力」、「自由」、「勇気」の3つのキーワードを使ってお話したいと思います。

人間が生きていく上で、想像力はとても大事です。想像力が豊かな人は、他者が何を考え、苦しんでいるのかを思い遣ることができます。ビジネスに関わっても、お客さまの気持ちが分かる人と分からない人ではまったく成果が違います。結婚にも想像力が必要です。違う人生を歩んできた男女が一つ屋根の下で生活するわけですから、相手の気持ちを思い遣る想像力がなければ上手くいきません。想像力の豊かなお母さんは、子どもに愛情を上手に伝えられます。

想像力を豊かにすることは、本をたくさん読んだり、弱い人やお年寄り、友達、地域のことを考えたり、いろんな経験をやるなかで養われていきます。

私は東京医科歯科大学を卒業後、長野県の小さな病院に赴任しました。赤字経営でお医者さんがなかなか集まらない病院でした。そこで、地域の人たちがどういう医療をしてほしいのか、いろいろと想像力を働かせました。保健師さんとともに「健康づくり運動」に取り組み、その結果、脳卒中死亡率が高かった長野県はいまや長寿日本一になりました。

また、東日本大震災の被災地で支援活動を行っています。必ず相手の気持ちになって考えるようにしています。一人ではできないことでも、熱い思いをもった子どもや若者、それを後押しする大人がいれば、いろんな奇跡が起こせます。できないと諦めるのではなく、勇気をもって取り組むことが大事です。

○と×の間にある△を探せ

最近、『○に近い△を生きる』という本を書きました。人間は“○”か“×”のどちらかに決めようとして。○と×の間に一番いい△を探すというのが民主主義にとって大事なはずなのに、議論ができないような社会になっています。どのように生きるかというときに、○と×の間に無数のいろんな△があると思うと、とても楽な気持ちになれるのではないのでしょうか。一生懸命に生きていても一度や二度、必ず絶望に出会います。どうやって乗り越え、希望につなげていくか。絶望という×の隣には結構、ステキな△があるのです。

この本の1行目に“18歳の夏、父親の首を絞めた。”と書きました。実は、私は両親に捨てられた子どもです。私が生きてこられたのは、拾って育ててくれた親のおかげ。父がどんな思いで育ててくれたのか、当時は想像できませんでした。高校3年の春休み、その父に泣きながら「大学に行かせてください」とお願いしました。「貧乏人は働けばいいんだ。余計なことは考えるな」と言われ、それでも諦めきれず、夏にもう一度お願いし、断られ、父の首を絞めてしまいました。父が泣き出してくれたおかげで私は我に返り、手を緩めました。そこで父は「そんなに勉強がしたいのか。もうお前に自由をやる。後は自分の責任で生きてくれ。その代わり1つだけ約束してほしい。貧乏な人間がどんな思いで医者になるか、お前は忘れるな」と言いました。私が国立大学の医学部を卒業し、潰れそうだった病院で働こうと思ったのは、父から自由をもらったからです。

1%を誰かのために生きてほしい

皆さんは、好きな音楽が聴けますし、読みたい本があれば読めます。その自由をちゃんと使っていますか。また、正しいと思ったことをちゃんとと言えますか。それが日本を良い国に、温かくて優しい国にします。そのためには、一人ひとりが自立し、自由でいることが大切です。自分の自由を99%大事にしながら、1%はいつも誰かの自由を大事にしましょう。弱い人、困っている人、クラスの仲間、皆が誰かのために1%生きると、とても良いクラスや社会ができると思います。

2つの“幸せホルモン”というのがあります。自分を幸せにするのが「セロトニン」です。喜びホルモンといって、本、音楽、絵画、夕陽などに感動すると出てきます。セロトニンが多い人は、壁にぶつかった時にへこたれたりはしません。もう1つは「オキシトシン」です。相手の身になる、家族、友達、人のために何かをする、人を幸せにしたときに出てきます。生きる力になるとされるホルモンです。2つのホルモンを出せるように、感動しましょう、人を幸せにしましょう。

世界は面白い。面白いことに気が付かないでいたら、何で生きているのか分かりません。勉強は一人ひとりが本気にならないとできません。大切なことは一人ひとりが人生を面白く、誰かの役に立ちながら生きることです。自分のパートナーを見つけ、家族をつくり、命のバトンを次の世代につないでいくこと。皆さん、もらった命を一人ひとりが大切に、精一杯生きましょう。そのためには、勉強すること。勉強すると、人生を何倍も面白く、深く味わうことができます。



## 平成25年度部門別学生・生徒・園児数等

平成25年5月1日現在(単位:人)

部門	学部・学科名等	収容定員(A)	1年	2年	3年	4年	合計(B)	定員充足率(B/A)	備考
大 学	現代社会学部	490	100	102	96	136	434	88.6%	
	子ども育成学部	330	86	77	77	78	318	96.4%	
	小 計	820	186	179	173	214	752	91.7%	
短 大	食物栄養学科	160	90	88			178	111.3%	
	幼児教育学科	160	87	91			178	111.3%	
	経営情報学科	200	131	112			243	121.5%	
	福祉学科	140	48	55			103	73.6%	
	専攻科食物栄養専攻	30	16	17			33	110.0%	
小 計	690	372	363			735	106.5%		
高 校	全日制普通科	725	294	353	220		867	119.6%	
幼稚園		84	3歳児	4歳児	5歳児		108	128.6%	
			30	41	37				
総 計		2,319					2,462	106.2%	

# 平成24年度 決算及び財務の状況

## 平成24年度決算及び財務の状況

平成24年度の事業報告及び決算は、去る5月30日開催の評議員会・理事会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

### 大学

大学は、平成21年度に設置した子ども育成学部の学生が4学年揃ったことから、学生数・学納金ともに大幅な増となりました。また、教員が外部資金の積極的獲得に努力し、教育力の向上や地域との連携強化に取り組んだことも好影響を与えていると思われます。

平成25年度からは、子ども育成学部も経常費補助金の対象となることから、これからは経常収支ベースでの黒字を確保していかなければなりません。また、支出面では、人件費・教育研究経費・管理経費ともに対前年度比で減額となっており、徹底した経費削減の結果の現れと言えます。

この結果、消費収支差額は△61,298千円（H23 △238,291千円）となり、大幅な収支改善となりました。大学は、長らく赤字体質が続いていましたが、ようやく黒字体質への転換が期待できる可能性が見えてきました。今後も学生募集に注力し、学生主体の教育研究に邁進しなければなりません。

### 短大

学納金や補助金に大幅な増減はありませんが、短大校舎改築Ⅰ期工事の影響により、消費収支差額は△252,135千円（H23 431千円）と大幅な赤字となりました。さらに、平成25年度には新校舎への備品等の納入を行うため、今後も資金需要が高い状態にあります。短大は、今まで定員を確保し本学園の黒字を累積してきましたが、必ずしも安泰な状態で推移してきたわけではありません。現に志願者数は減少してきており、今後、校舎改築Ⅱ期工事を検討しなければならぬことから、早急に対策を検討しなければなりません。

### 高校

校舎改築による学習環境の整備や多方面へのスクールバス運行の利便性等により、生徒数は大幅に増加となりました。しかし、それに伴い新規の教員採用を余儀なくされたことや諸経費の増などにより、消費収支差額は△81,172千円（H23 △199,536千円）となりました。

富山県内における私立高校への進学者数は、県立高校の出願状況によって大きく増減します。今後は、平成24年度に県内で高校として初めてユネスコスクールに認定されたこと、大学等への進学実績、諸活動の成績を上げることな

どによって、本学の特色ある教育をアピールし、本学への専願志願者の増加に努め、安定的に生徒数を確保しなければなりません。

### 幼稚園

幼稚園においては、保護者会との連携強化や保育内容が評価されていることから、近年は収容定員を確保することができています。しかし、消費収支差額では△10,017千円（H23 △8,953千円）となり、慢性的な赤字体質であることには変わりはありません。加えて、最大の課題である老朽園舎の改修問題があり、少しでも収支の改善に努めなければなりません。

また、幼稚園を取り巻く環境は、幼保一元化の流れを受けて「認定こども園」への方針転換も含めて、今後の園の在り方を早急に検討しなければなりません。これは、園舎の建替え規模や時期にも大きく影響することから、県内他園の状況や国や自治体の補助金制度の動向等にも注視し、慎重に検討しなければなりません。

## 学園全体の決算及び財務状況

**消費収支計算書**（1会計年度の消費収入と消費支出を明らかにして、その均衡状態を表すもの）において、消費収入の部で帰属収入合計が2,811百万円（対前年度比175百万円増・6.6%増）、消費支出の部で消費支出合計が2,794百万円（同153百万円増・5.8%増）、基本金組入額合計が426百万円（同21百万円減・4.7%減）となりました。この結果、平成23年度繰越消費支出超過額2,636百万円に、平成24年度消費支出超過額を加えた3,045百万円が平成25年度への繰越消費支出超過額（累積赤字）となりました。

収入増の主な要因は、①大学・高校の学生生徒数増によるもの、②雑収入のうち、退職給与引当金戻入額の増によるもの、③学園創立50周年記念寄附金の増によるもの、です。このうち、②については、公認会計士からの指摘により、従来積み過ぎていた退職給与引当金を取り崩したことによる臨時的な要因であり、平成25年度以降の収支への影響は、小さくなると思われます。

支出増の主な要因は、短大校舎改築Ⅰ期工事に伴う既存校舎解体による資産処分差額（減価償却が残っている資産を取り壊した際に発生する費用）の増によるものです。

なお、予算計上していた基本金取崩額（大学地域学部及び国際教養学部廃止にかかる取崩額）は、取崩額算定に様々な考え方があつたため、公認会計士と引き続き検討することとし、平成24年度の取崩は見送ることとなりました。

**資金収支計算書**（1会計年度のすべての資金の収入と支

### 消費収支計算書

平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで

(単位：百万円)

	24年度予算	24年度決算 ①	前年度決算 ②	差 異 ①-②	
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,886	1,878	1,764	114
	手数料	33	35	34	1
	寄付金	4	43	16	27
	補助金	572	511	552	△41
	資産運用収入	29	36	32	4
	資産売却差額	13	20	0	20
	事業収入	77	75	78	△3
	雑収入	124	213	160	53
	帰属収入合計	2,738	2,811	2,636	175
	基本金組入額	△485	△426	△447	21
消費収入の部合計	2,253	2,385	2,189	196	
消費支出の部	人件費	1,726	1,687	1,714	△27
	教育研究経費	872	838	776	62
	管理経費	131	121	132	△11
	借入金等利息	1	1	3	△2
	資産処分差額	153	147	16	131
	予備費	16			
	消費支出の部合計	2,899	2,794	2,641	153
	当年度消費支出超過額	△646	△409	△452	43
前年度繰越消費支出超過額	△2,636	△2,636	△2,184	△452	
基本金取崩額	2,245	0	0	0	
翌年度繰越消費支出超過額	△1,037	△3,045	△2,636	△409	

### 資金収支計算書

平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで

(単位：百万円)

	24年度予算	24年度決算 ①	前年度決算 ②	差 異 ①-②	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,886	1,878	1,764	114
	手数料収入	33	35	34	1
	寄付金収入	2	24	7	17
	補助金収入	572	511	552	△41
	資産運用収入	29	36	32	4
	資産売却収入	21	21	0	21
	事業収入	77	75	78	△3
	雑収入	124	132	158	△26
	借入金等収入	0	0	0	0
	前受金収入	469	445	454	△9
	その他の収入	1,078	1,254	679	575
	資金収入調整勘定	△479	△602	△599	△3
	当年度収入合計	3,812	3,809	3,159	650
	前年度繰越支払資金	1,057	1,057	1,129	△72
収入の部合計	4,869	4,866	4,288	578	
支出の部	人件費支出	1,723	1,694	1,742	△48
	教育研究経費支出	601	569	499	70
	管理経費支出	129	119	130	△11
	借入金等利息支出	1	1	3	△2
	借入金等返済支出	17	17	57	△40
	施設関係支出	1,025	1,022	444	578
	設備関係支出	54	40	41	△1
	資産運用支出	246	343	227	116
	その他の支出	388	386	475	△89
	予備費	16			
	資金支出調整勘定	△91	△157	△387	230
	当年度支出合計	4,109	4,034	3,231	803
	次年度繰越支払資金	760	832	1,057	△225
	支出の部合計	4,869	4,866	4,288	578

出を明らかにし、資金の動きを表すもの)において、平成24年度の収支状況を資金面の流れで見ると、収入額は平成25年度生の前受金や平成24年度末の未収入金等も含めて、3,809百万円(対前年度比650百万円増・20.6%増)となり、前年度から繰り越した1,057百万円(同72百万円減・6.4%減)を加えると、収入合計は4,866百万円(同578百万円増・13.5%増)となりました。

一方、支出額は人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等利息支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出などで4,034百万円(同803百万円増・24.9%増)となり、差し引き832百万円(同225百万円減・21.3%減)が翌年度への繰越支払資金となりました。

収入の部では、その他の収入のうち、学園充実引当資産からの繰入収入(取崩)および短大校舎等引当特定資産からの繰入収入(取崩)が大幅に増加となっています。これは、短大校舎改築Ⅰ期工事費に充当するために、今までに積み立てていた資金を取り崩したことによるものです。

支出の部では、施設関係支出が大幅に増加となっています。これは、短大校舎改築Ⅰ期工事の着手金及び中間期の支払によるものです。

**貸借対照表**(年度末における資産、負債、正味財産(基本金、消費収支差額など)の状態を表すもの)において、学園の財務状況を見ると、平成24年度末現在の資産総額は12,079百万円で、その内訳は有形固定資産(土地、建物、備品など)8,191百万円、その他の固定資産(特定資産、引当資産など)2,884百万円、流動資産(現金預金、未収入金など)1,004百万円となりました。

一方、負債総額は1,264百万円で、その内訳は固定負債(退職給与引当金)606百万円、流動負債(短期借入金、未払金、前受金など)658百万円となりました。

また、基本金は13,860百万円となり、その内訳は第1号基本金(設立当初に取得した固定資産並びにその後新たに取得した固定資産の自己資金による支払済額)が13,601百万円、第2号基本金(将来取得する固定資産の取得に充てる金銭等の資産額)が50百万円、第3号基本金(基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭等の資産額(奨学基金など))が13百万円、第4号基本金(恒常的に保持すべき資金額(資金的な消費支出の1ヶ月分に相当する運転資金))が196百万円となりました。

この結果、翌年度繰越消費支出超過額3,045百万円となりました。

平成24年度、本学園は消費収支では赤字でしたが、平成18年度以来の経常収支(帰属収支)ベースでの黒字を確保することができました。本学園では、子ども育成棟建設、高校校舎改築工事、短大校舎改築Ⅰ期工事と大型の施設投

資が続いています。これらはすべて本学園の自己資金で賄っていることから、本学園の積立資金は大幅に減少し、本学園の財務状況は非常に厳しい状況にあります。さらに、短大校舎改築Ⅱ期工事や幼稚園改修工事についても、早急に建築計画を検討する必要があるため、各校においては入学定員及び収容定員を安定的に確保し、国等の補助制度を積極的に活用し、財務状況の改善に努めなければなりません。

また、平成21年度に策定した5ヶ年の経営改善計画が平成25年度で終了することから、これまでの計画の検証と新たな経営改善計画を策定する必要があります。

私学を取り巻く環境は厳しさを増し、特に地方の小規模法人の私学にとっては、これからますます厳しくなることが予想されます。本学園は、平成25年度に学園創立50周年という大きな節目を迎えました。これまで本学園を支えて下さった様々な方々に感謝するとともに、今後も地域と社会のニーズに応え、「地域に根ざした総合学園」としての使命を果たしていくことで、支援して下さい下さった皆様への恩返しをするとともに、更に本学園の存在意義を高めていかなければなりません。そのためにも、全教職員が一丸となって、様々な諸問題に果敢に立ち向かわなければなりません。

### 貸借対照表

平成25年3月31日

(単位:百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	11,075	11,152	△77
有形固定資産	8,191	7,530	661
その他の固定資産	2,884	3,622	△738
流動資産	1,004	1,234	△230
資産の部合計	12,079	12,386	△307
負債の部			
固定負債	606	707	△101
流動負債	658	881	△223
負債の部合計	1,264	1,588	△324
基本金の部			
基本金の部合計	13,860	13,434	426
消費収支差額の部			
消費収支差額の部合計	△3,045	△2,636	△409
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	12,079	12,386	△307

### 消費収支計算書内訳表

平成24年4月1日から

平成25年3月31日まで

(単位:千円)

	学園本部	大 学	短 大	高 校	幼稚園	総 額		学園本部	大 学	短 大	高 校	幼稚園	総 額	
消費収入の部	学生生徒等納付金	0	763,937	703,960	382,005	28,448	1,878,350	人件費	33,491	709,935	530,466	373,229	39,748	1,686,869
	授業料	0	408,606	350,500	278,635	21,352	1,059,093	教員人件費	0	447,943	353,378	329,722	39,565	1,170,608
	入学金	0	58,340	82,750	55,821	1,320	198,231	職員人件費	21,590	182,513	138,751	35,925	11	378,790
	実験実習料	0	37,466	46,390	0	0	83,856	役員報酬	11,420	0	0	0	0	11,420
	施設設備資金	0	185,375	154,220	43,033	1,884	384,512	退職金	0	79,479	38,337	1,721	0	119,537
	その他の納付金	0	74,150	70,100	4,516	3,892	152,658	退職給与引当金繰入額	481	0	0	5,861	172	6,514
	手数料	0	12,103	14,553	8,082	40	34,778	教育研究経費	0	355,683	269,786	188,488	24,186	838,143
	寄付金	10,945	5,322	3,895	21,848	589	42,599	管理経費	13,304	48,887	42,741	15,236	672	120,840
	補助金	0	124,894	122,759	243,837	19,561	511,051	借入金等利息	0	0	536	0	0	536
	資産運用収入	31,573	1,925	1,677	543	5	35,723	資産処分差額	0	3,652	134,968	9,282	0	147,902
	資産売却差額	0	0	17,620	2,869	0	20,489	消費支出の部合計	46,795	1,118,157	978,497	586,235	64,606	2,794,290
	事業収入	0	13,123	27,457	28,499	6,172	75,251	当年度消費支出超過額	△4,434	△61,298	△252,135	△81,172	△10,017	△409,056
	雑収入	171	147,896	62,710	2,387	50	213,214	前年度繰越消費支出超過額	—	—	—	—	—	△2,636,431
	帰属収入合計	42,689	1,069,200	954,631	690,070	54,865	2,811,455	翌年度繰越消費支出超過額	—	—	—	—	—	△3,045,487
基本金組入額	△328	△12,341	△228,269	△185,007	△276	△426,221	消費収支差額(帰属収入-消費支出)	△4,106	△48,957	△23,866	103,835	△9,741	17,165	
第1号基本金	△316	△12,341	△178,269	△185,007	△276	△376,209								
第2号基本金	0	0	△50,000	0	0	△50,000								
第3号基本金	△12	0	0	0	0	△12								
第4号基本金	0	0	0	0	0	0								
消費収入の部合計	42,361	1,056,859	726,362	505,063	54,589	2,385,234								

## 富山国際大学

## 「大学コンソーシアム富山の事業を実施しました」

本年4月に県内7高等教育機関で組織する「大学コンソーシアム富山」が発足し、本学は単位互換と合同企業訪問事業の実施校となりました。

9月4日（水）から9月7日（土）の4日間に亘って県内初の単位互換科目「とやま地域学」（現代社会学部担当）を高志の国文学館において開講し、県下の大学・短大・高専の学生と一般聴講生の約80名が富山の自然・文化・産業に関する講義を受け、最終日には講義内容の関連施設を巡りました。

また、県下の学生に県内企業の魅力を発見してもらいつつ、就業意識の向上と自らのキャリアデザインに主体的に取り組むことができるよう、富山労働局や県内20の企業等の協力による合同企業訪問事業が9月5日（木）に行われ、本学学生33名を含む128名が参加しました。

将来を考える上で有意義な研修であった、他大学の学生とのネットワークができたとの反響があり、学生の成長を実感することができました。

今後も、県下の学生はもとより、本学の学生のためにも益々充実した事業を企画します。



## 富山短期大学

## 本学の学生がチリで行われた空手ワールドカップに出場しました



本学経営情報学科1年生の原ひかりさんが、2013（平成25）年10月12日に南米のチリで行われた極真空手のワールドカップ（W杯）の女子軽量級（55kg未満）に、日本代表として出場しました。

原さんは準決勝でウルグアイの選手に本戦判定勝ちし、決勝では地元チリの選手を相手に延長2回で判定の結果、惜しくも敗れましたが準優勝の快挙を成し遂げました。

原さんは試合後「海外の選手は力があって一戦一戦が接戦でした。たくさんの方に支えていただいたおかげでいい結果を残すことができました。本当にありがとうございました。」と大会を振り返りました。

富山短期大学教職員と学生一同、大学の誇りとして原さんの健闘を讃えるとともにますますのご活躍を期待しています。

## 富山国際大学附属高等学校

## 過去最多の中学生が国際高に

8月21日（水）の第1回オープンキャンパスには、480名の中学生が本校を訪れました。昨年も408名で過去最多でしたが、今年はさらに大きく上回る参加者を数えました。

中学生は、国際英語・部活動・英語以外の教科など、本校の特色ある学校生活を体験しました。なかでも、新1年生全員に導入を予定しているipad miniを使った英語の授業に人気集中しました。参加者は、「楽しかった」「学校の雰囲気がよくわかった」「国際高校で英語を勉強したいと思った」などの感想を述べてくれました。

過信は禁物ですが、平成26年度の生徒募集活動も順調にスタートしたという感触を得ています。



## 富山短期大学附属みどり幼稚園

## 「みんなチャレンジ!うんどうかい」



みどり幼稚園の子どもたちが、ワクワクドキドキ楽しみにしていた運動会が今年度もありました。今年度は富山国際学園が創立50周年ということもあり、「富山国際学園創立50周年記念 大運動会」と銘打って、完成したばかりの新体育館で行いました。きれいな体育館に子どもたちも「きれ〜い、ひろ〜い!」と大喜びで、リレーやサーキット遊び、大玉ころがし、親子で綱引きなどを楽しみました。今年度の新競技、親子で力を合わせて段ボールを積み上げる「たか〜くつみつみたいけつ」では、子どもを肩車などして、少しでも段ボールを高く積み上げようと力を合わせる親子の絆が輝いていました。子どもたちのニコニコ笑顔がいっぱい咲いた楽しい運動会でした。